

研究・調査報告書

報告書番号	担当
454	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Binge drinking and the progression of atherosclerosis in middle-aged men: an 11-year follow-up 中年男性における宴会大量飲酒と動脈硬化進展との関連：11年間追跡結果	
執筆者	
Rantakomi SH, Laukkanen JA, Kurl S, Kauhanen J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Atherosclerosis. 2009 Jul;205(1):266-71.	
キーワード	
大酒飲み、動脈硬化進展、中年男性、前向き研究、FinDrink Study	
要旨	
目的： 飲酒様態と動脈硬化進展との関連に関する知見は乏しいし、飲酒と動脈硬化進展との関連に関する先行研究の結果は一致を見ない。宴会で大酒飲みをする様態と11年間における頸動脈・動脈硬化進展との関連について中年一般住民男性を対象に検討した。	
方法： 本研究は Kuopio Ischemic Heart Disease Risk Factor Study をもとにした FinDrink Study の一部である。751人の中年男性を対象に飲酒様態と頸動脈エコー検査による最大および平均内膜中膜厚の変化、プラークの最大厚の変化について検討した。	
結果： 共変数の組み合わせを変えて種々の解析を行ったところ動脈硬化進展速度は1宴会に6飲酒単位以上飲酒する男性群（全体の22.4%を占める）において統計学的に有意に高かった。最大内膜中膜厚の平均増加速度は Model 1, $p=0.008$; Model 2, $p=0.031$, Model 3, $p=0.037$ であり、プラークの最大厚の平均増加速度は Model 1, $p=0.002$; Model 2, $p=0.012$, Model 3, $p=0.017$ であった。	
結論： 本研究の結果、中年男性において宴会で大酒飲みする飲酒様態は総飲酒量とは独立して11年間の動脈硬化進展速度を増加させることが判明した。	